

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	食品ロス削減事業
事業主体 (連絡先)	松本市 (市民環境部 環境政策課 環境政策担当)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,884,668 円 (うち支援金: 1,351,000 円)

事業内容

まだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」は、年間500万～800万トンも排出されており、行政のみならず、市民や事業者が率先して取り組むことにより、食品ロスを減らしていく必要がある。

本市では、**みんなで減らそう食品ロス**というテーマで、「残さず食べよう！30・10運動」を展開し、家庭、飲食店それぞれの食品ロスを減らすための取り組みを行った。

特に、各地区における講座、料理教室等の開催や飲食店の協力による普及啓発を行うなど、市民との連携により事業を実施した。



【 講座の様子 】

【目標・ねらい】

- ①事業への市民参画
- ②飲食店等の理解・協力
- ③ごみの減量化

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①地区の食生活改善推進員や衛生委員を対象とした講座を実施し、意識啓発を図ったところ、受講者が、話を各町会等に持ち帰ったことで、一層の事業啓発が図られた。中には、地区の宴会でコースターを使いたいという声もあり、市民の自発的な取組みにつなげることができた。
- ②趣旨に理解してもらった飲食店等の協力により、コースターやポケットティッシュを店舗に設置してもらい、連携して事業を実施することができた。
- ③事業実施により、ごみがどれだけ減ったかを数値化することは難しいが、一般廃棄物は減少しているので効果は上がっていると考えられる。

※自己評価 【 B 】

【理由】
市民の自発的な取組みが見られ、市民から市民への波及による食品ロス削減ができ、予定どおりの成果が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

市民の自発的な取組みが促されてきているので、一層の促進を図る。
より市民が楽しく食品ロス削減の取組みを推進できるような仕組みを考えていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある